

謹賀新年



<謹賀新年 ならやまのお正月>



Contents



ホームページではカラーで見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

会長・新春挨拶	1	私の海外でのボランティア活動	9
緑綬褒章、緑の環境プラン大賞	2	鳥のエッセイ	10
ならやまプロジェクト	3	字遊字感	11
Monthly Repo ならやま	4	ならやま投句箱	12
里山の今（パト・果樹）	5	行事案内（1）	13
自然観察会レポ	6	行事案内（2）仲間入りしました	14
年末ならやま研修会レポ	7	幹事会報告・編集後記	15
芋煮会レポ	8		



新年 明けまして おめでとうございます



千載 輝重

コロナ禍はまだまだ不安を残しつつではありますが、会員の皆さまには、ご家族そろって穏やかに新たな年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、会創立 20 周年。5 月に会長職を受け継ぎ、未熟ながらも皆さまのお力添えを得て少しでも前進したいとの思いから、「あなたも私も、力を合わせて」、これまでの足跡を振り返りつつ、新たな 5 年、10 年の中長期ビジョンも見出したいと申し上げました。そしてその原点として、会員の想いを共有するためにアンケートも実施し、その結果が今後のあり方を考える拠りどころにもなって、議論も高まりました。また秋には、長年にわたる活動が評価され、緑綬褒章、緑の環境プラン大賞という、20 周年を飾るにふさわしい栄誉をいただき、21 年目に向かって新たな一步を踏み出す大きな励みとなりました。

一方、2 年にわたるコロナ禍は私たちの活動に多大な影響を与え続けました。振り返りますと、2020 年 1 月 29 日、日本国内コロナ感染第 1 号が奈良県で発生した後、すぐに第 1 波が襲来。3~5 月の間に 2 か月の活動休止、その後もさまざまな制約を強いられて、長い間、ならやままでの活動は午前中のみに限られ、例会活動や自然教室、イベントも中止が相次ぎました。昨年も第 4 波で 1 か月の活動休止を強いられました。そして第 5 波が収束に向かうとともにウィズコロナを受け入れつつ、ようやく諸活動が再開され、ならやまでも 10 月から昼食をはさんでの活動に戻ってきたのです。

この間、ならやまプロジェクトでは、荒廃を防ぐために、対策を講じつつ、何とか最低限の活動を続けてきました。おかげで、ならやまの景観は大きな打撃を受けることなく維持できて

います。

けれども、私たちの活動は目に見えない影響を受けているように感じます。それは、会のモットーである「明るく 楽しく」は、なかなか気持ちの面で難しかったということです。マスクをかけての活動は、仲間の笑顔を見えなくしました。ならやまでもお昼の時間もなく、短い活動時間の中で、かけがえのないコミュニケーションの場が奪われました。この間、活動参加者も減少しました。なんとも、コロナ憎しです。

今年こそは、オミクロンのような得体のしれない脅威も消え、できれば早い時期にマスクも外して、みんなの笑顔を実感しながら活動できるようになることを願うばかりです。

私たちの活動の資源は「人、場、金」です。それぞれに様々な課題があり、諸事情によってどうしようもないこともあります。「人」についても高齢化は大きな課題ですが、私たちの気持ちの持ち方が大切です。元気で活力ある活動に戻るには、「明るく 楽しく」だけでなく「あなたも私も 力合わせて」が不可欠です。そして、何に向かって力を合わせるのか、もっともっとみんなで話し合い、理解しあうことが必要です。

春には 20 周年記念誌も発行されます。今一度、諸先輩が積み重ねてこられた成果を振り返り、新たな歩みにつなげましょう。

微力でも合わさることによって大きな力になることを信じて、皆さんと一緒に、意義ある年になるように努めたいと思います。



初出式 笑顔あふれる たき火端
七草がゆの 温もりうれし

令和3年度秋の褒章

緑綬褒章 伝達式

千載 輝重

昨年12月10日、秋の褒章の伝達式が奈良県庁で実施され、当会は栄えある緑綬褒章（褒状）を賜りました。コロナ禍や内閣交代、衆院選挙などのために報道発表から1か月余り遅れての伝達式でした。

褒賞制度は国や公共のために功労のあった人や団体を国が毎年春と秋に表彰する制度です。その中で緑綬褒章は「長年にわたり、社会に奉仕する活動（ボランティア活動）に従事し、顕著な実績をあげた方」に対して授与されるもので、この秋の褒章では31人（うち奈良県は2人、2団体）が表彰されました。

当会の表彰について、奈良県、奈良市から報道発表された功績概要は次の通りです。

「平成13年設立以来、奈良県を中心に活動する里地・里山の景観づくり、里山の再生と活用、復元した農地を活用した有機農法の実践、地域貢献活動等を展開している。その他に、奈良市アダプトプログラム推進事業に登録し、道路の美化活動を通して地域コミュニティの活性化を進めるなど、幅広い公益活動を継続して行ってきたことの功績は誠に顕著である」。

まさに、私たちが会設立以来取り組んできた活動全体が評価されたということでしょう。20周年の節目の年に、国から表彰される（褒状には「日本国天皇は・・・を表彰する」とあります）という栄誉に浴したことを大きな励みとして、新たな歩みにつなげていければと思います。



第32回緑の環境プラン大賞

コミュニティ大賞受賞

千載 輝重

昨年11月22日、第4回「みどりの『わ』交流のつどい」～都市の緑三賞表彰式～がオンラインで実施され、秋篠宮佳子内親王殿下からのお言葉をいただいたあと、国土交通大臣はじめ来賓の祝辞に続き、各賞計59団体（昨年度は実施されなかったため2年分）の受賞紹介、代表受賞者の発表などがありました。当会はその中の一つである本年度の「第32回緑の環境プラン大賞」(都市緑化機構、第一生命財団主催)のポケットガーデン部門において【コミュニティ大賞】を受賞しました。また、12月2日には、東京から主催者の方が賞状授与に見えられ、ならやまの活動もご覧いただきました。



ならやま里山林はコナラを主体とする落葉広葉樹林で、春から夏にかけては生き生きとした新緑に覆われ、秋には黄葉で彩られて、私たちを時に勇気づけ、時に慰めてくれます。また、地域の方が訪れる憩いの場にもなっています。

その入り口ともなる学びの森を整備して、子供たちを迎えて自然とのふれあいを深めてもらうために活用したい。また、その周辺に植樹することで里山林に新たな彩を添えたい。この思いを【古都に広がる里山の彩り】プランとしてとりまとめて応募したものが、評価されて受賞につながりました。背景には、当会が長年にわたってならやまの景観整備に地道に取り組んできた活動が評価されたものと思っています。

本プランの完成期限は3月末です。皆様のご協力をお願いします。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて

寒さが日に日につる中で、オミクロン株による感染が危惧されつつも、平穏な日々が続いている。12月は、学びの森エントランス広場への植樹、竹林整備、アダプトプログラムと協働活動が3回もあった。なかなか全員が一体となって取り組むのは難しい。けれども協働活動には各グループから参加していることでグループ間の交流は進み、雑談の中でも他のグループの様子もお互いに知ることができる。今年はぜひとも協働活動にもう少し工夫を加えて、交流を促進したいと思う。

年末最後の活動日には、門松も据えられ、それぞれが倉庫などの片づけを行って、終礼後には希望者が恒例の干支づくりをして、和やかなうちに年を終える。

振り返るとコロナ禍は2年を超え、その間、ならやまの活動も3度、通算3か月休止した。活動を午前中に限るなど、対策を講じつつ、満足な活動はできなかったが、何とかならやまが荒廃するのを食い止めてきた。けれども気持ちの上でも「明るく 楽しく」は難しく、作業もやや「無理をせず」とは行かず、とても新たな展望を考える気にもなれなかったように思う。

今年こそは、ウィズコロナを乗り越えて、心身共に元の活動に戻れることを願う。

1月の活動特記事項

初出式・10年継続会員記念植樹：1月6日

協働活動：1月13日 アダプトプログラム

1月の各グループ活動予定

グループ	活 動 予 定
里 山	楷木づくり、玉切り、枝の整備下草刈り、薪割り ユート：アカマツの森 松の剪定
エコファーム	エンドウ支柱立て・ネット張り、野菜収穫、畑の整備（チップ入れ）
景 観	実りの森：竹林整備 ビオ：東池改修、西池・水路改修 花：アジサイ園草取り・寒肥やり、花壇草取り
パトロール	新1～3コースパトロール、観察路整備（丸太階段補修その他） メンテ：BC前の階段新設工事
果 樹	キウイ棚設置工事、冬季剪定、B地区への車進入路整備、寒肥施肥

活動日：毎週木曜日 9:00～15:00

前日水曜日の19時現在の気象庁予報（NHKTV 奈良 19時前放送）の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌金曜日、木曜日にも同予報であれば中止



Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

11月25日(木) 活動 晴 72名

月末活動日であり、各Gでの倉庫内の備品調査を実施。学びの森エントランスエリア植樹用の苗木を搬入。エコGは牛蒡、里芋、葉野菜などの収穫、景観Gは佐保自然の森の竹林整備を実施。花班は久しぶりに多くの応援を得て西側花壇の棚作り、ビオ班は西池北側の水路作りと整備を行う。パトGは新コースのパトロールとエントランス広場の草刈、BC前階段新設工事などを実施した。果樹Gは、果樹苗の植付け、キウイ苗床設置などを行った。

12月2日(木) 活動 晴 74名

緑の環境プラン大賞の表彰状授与のために東京から第一生命財団の方が来訪。授与式の後、全員で記念写真を撮影した。また、佐保台小児童が投稿したならやまの黒米についての歌が朝日新聞の歌壇に選ばれて掲載されたとの情報。ならやまの黒米も全国区となった。

第2駐車場の砂利の整理、佐保自然の森の竹林整備を協働活動で行う。その後、里山Gはいつもの里山林保全のほか干支の置物準備、エコGは芋煮会用の里芋堀り、野菜類の収穫、景観Gは佐保自然の森の竹林整備、花班は道路沿い花壇の草引き、皇帝ダイアの棚作りを行う。パトGは2コースのパトロール、A地区の整備、BC前階段新設工事、果樹Gは実りの森入口の道路整備と、果樹苗木の植込みなどを行った。

12月9日(木) 活動 晴 78名+7名(近大)

協働活動にて、美しい里山を夢に見つつ、学びの森



エントランスエリアに紅葉、カツラ 20 本を植樹。昼にはエコGが中心になって芋煮会が開催され、さすがに年季が入った味は好評で、約100食分の芋煮を参加者80名ほどが完食した。里山Gは植樹を指導したのち、干支の準備、薪割り、枯れ木の伐採、エコGは芋煮会で頑張った後、里芋、大根などの収穫をする。

一部の畑に鹿による被害が出ているらしい。緑がなくなる季節には餌を求めてやってくるようだ。

景観Gは佐保自然の森竹林整備、花班は道路沿い花壇の千日紅撤去、パトGは3コースのパトロールとBC駐車場階段新設工事、観察路案内表更新などを行う。果樹Gはコンポスト囲い作り、キウイ苗の植え込みと鹿除け対策を行った。

12月16日(木) 活動 晴 75名

協働活動でアダプトプログラムによる周辺清掃を実施、新年を迎える準備が進む。緑綬褒章の伝達式について報告があり、いただいた褒状を前に、全員で記念写真を撮った。



里山Gは通常作業のほか干支の置物や門松の準備、ユートピアクラブは、赤松林の剪定と門松材の手配を行う。エコGは里芋、冬野菜の収穫、鹿被害(そら豆)の捕植と鹿対策を行う。景観Gは佐保自然の森の竹林整備、花班は皇帝ダイア、ハヤト瓜の片づけ、ビオ班は東池の水抜きと西池周辺水路整備。パトGはBC駐車場階段新設工事、観察路案内看板更新を行う。果樹Gは梅、柿の剪定とB地区の侵入路の補修を実施。午後、四阿にてならやま委員会が開催。

パトロールグループ

里山の今

果樹グループ

＊大極殿が見えるスポット

木村 宥子

12月の初め、山は大変穏やかな柔らかい日につつまれていました。

コシアブラは透き通るような黄色に色付き、葉を通して日の光が差しこむような美しさです。山にはいくつか“名所”があり、鳥観の丘もその一つ、ご存じのようにここから平城宮跡の大極殿がみえたのです。でも眼下の木や竹が大きくなって大極殿を隠してしまい、今では全く見えなくなってしまいました。ところが、この鳥



観の丘の少し北から西の方に大仏殿が見える所があるというので、行ってみました。まあなんとバッチリ！西側が伐採されたため、遮るもの

がなく遥かに大極殿が見えるではありませんか！子どもたちを呼んでの活動では、大いに喜んでもらえるでしょう。

もう一つ、鳥観の丘から南東に少し下がって「すぐ目の前」という位

置に鳥の巣がありました。

結構大きい巣です

が、残念ながらもう空

き家になっていまし

た。ジョウビタキの巣

だと思われます。灰色

の巣は深く、雛がいたこ

ろは暖かく安全な、子育てには最適の場所だったことでしょう。



この山にあるキノコなどの菌類は、色も形も実にモダンです。この方面の勉強をしたメンバーも加わってくださったので、これから勉強をしていきたいと話しています。

＊果樹の楽園を目指して！！

阿部 和生

果樹グループの受け持ち面積は一体どの程度あるのかしら？正確に測ったことはないけれども南部分だけでも4,000㎡を越えるから、6,500㎡以上はありそうです。南部分の大半は、ソバを長年栽培し土づくりして頂き先年その役目を終えました。現在は、ブルーベリーが主役、そしてカキ、スモモ、アンズ、サクランボ、ユズ、イチジクなどの苗木が育ちつつあります。

一部分はクリノキや、びっくりグミが育ち収穫でき好評です。ぐるりと「ウメの木」が周辺を取り巻いていますが、手を入れ収穫の向上を図りたい。実ウメだけでは寂しいと、所々に紅梅を配して景觀に配慮をしています。南斜面は奈良県の要請を受けたタチバナを植栽したのですが、度重なる補植ににもかかわらず不良で、現在に残っているタチバナだけの管理です。ハッサクやポンカンなど、移植や後からの苗木の方が同じ斜面でありながらむしろ頑張っています。数年前に植えたユズの木は「ユズの大馬鹿」でなくて、すでに実を付けています。毎年「ユズジャム」が楽しめそうです

現在果樹グループは、女性の方のご参加が増え男性も頑張っています。これまで十分でなかった草刈りも力を合わせて改善できそうです。

一方「シカ」という難敵が現れ、苗木を食いちぎり、新芽を食べと悔しい思いをしています。対策は一部進めています、さらに本部の支援を得て来年度防鹿柵を完備したいと計画です。

シカの防御と粘土質の排水路を進展させ新しくキウイの栽培を始めます。鈴なりのキウイを目論んでいます。排水路作りや日照を良くする木の伐採、草との戦い等々、いつも作業は満杯の状態ですが、収穫が楽しみの楽園を目指して和気藹々（わきあいあい）です。

自然教室だより
晩秋の奈良公園・紅葉狩り

辻本 信一

令和3年11月24日(水)、紅葉の見ごろを迎えた奈良公園にて今年最後の自然観察会を実施いたしました。朝から雲一つない快晴に恵まれコロナ前の一昨年同様10名の方にご参加いただきました。



【朝の集合写真】

定刻の午前9時、集合場所の近鉄奈良駅行基像前を出発。日本庭園の紅葉が素晴らしく今が見ごろの「吉城園」に直行しました。

受付を通過してすぐの茶室前「池の庭」では、瑞々しい常緑の木々の葉の色合いを更に引き立たせる鮮やかに紅葉したイロハモミジ、ドウダンツツジに加え、赤や白に咲く大ぶりのサザンカの八重の花びらが文字通り彩りを添え、私たちの目に飛び込んできました。そこで目は釘付け、参加者一同絶景にしばし言葉を失ってしまいました。



【吉城園「池の庭」日本庭園の絶景】

同園内は常に手入れが行き届いていて、奥に続く「苔の庭」「茶花の庭」では、目にも鮮やかなキミノセンリョウ・アカミノセンリョウはじ

め、ウメドモキ、ナンテンなど、この時期を代表する色鮮やかな果実をいっぱい実らせた植物を鑑賞することができました。

同園では以前あった年齢制限もなくなり、入場者全員無料となっておりますので、是非一度立ち寄られることをおすすめします。

盛りだくさんの吉城園見学のあと、東大寺戒壇院横を通り、次の観察ポイント「大仏池周辺」へと足を運びました。東大寺大仏殿の鴟尾(しび)が雲一つない青空に生え、水面に写る紅葉と共にのどかな景色



に心が休まります。【大仏池より大仏殿を望む】

そこから正倉院を通過し、次に向かったのは大仏殿北側にある銘木ラッパイチョウ。勿論、お目当てはラッパイチョウの落ち葉拾い。四葉のクローバーよろしく縁起の良いラッパイチョウを全員が見つけ来年は良い年になること間違いなし。



【ラッパイチョウ探し】

その後も若草山より流れる吉城川沿いのイロハモミジの紅葉を満喫しつつ、本日の最終地「奈良春日野国際フォーラム」裏の日本庭園に向け紅葉狩りのそぞろ歩きが続きました。



【春日野園地日本庭園】



【お疲れさま】

コロナ対策も万全に午前中のみの自然観察会となりましたが、奈良公園の自然を存分に満喫し、恒例の秋の紅葉狩りは無事終了いたしました。天候にも恵まれ素晴らしい観察会となりましたことをここにご報告いたします。

年末ならやま研修会

北川忠生・近大農学部准教授による 「畑を耕す魚類学者」

吉川 利文

2021年の掉尾を飾る「年末ならやま研修会」が、12月18日午後、奈良市法蓮町のホテルリガーレ春日野で行われた。講師は近畿大学農学部環境管理学科の北川忠生准教授。ビオトープでおなじみの、あのペタキン先生。題して「畑を耕す魚類学者」。コロナ禍のため対面の講演会は久しぶりだったが、この日は准教授自らパソコンを操作しながらの熱弁だった。

北川先生だから、話の中身はもちろんペタキンが主人公。まずは先生とペタキンとの出会い。近大に赴任されて2年目の2005年、絶滅危惧種の奈良県版レッドデータブック作りの魚類委員として奈良公園の池を調査中、ニッポンバラタナゴを数匹発見したのが始まり。当時、この魚は九州北部、香川県、大阪・八尾の三か所にしか生息していないことになっていた。

ここからのお話は「絶滅危惧種」がキーワード。奈良での地方名ペタキンがなぜ、奈良公園で生息していたのか、今後どう守っていくのか、と話は展開していく。

奈良公園の池は、落ち葉や鹿の糞が分解されないまま溜まり、環境が悪化していたが、公園の景観維持のため、時折しゅんせつされ、かうじて水質が維持されたため、タイムカプセル状態でペタキンが生息していたらしい。

北川先生はこれらのペタキンを持ち帰り、大学に作った「希少魚ビオトープ」で飼育することになるが、奈良公園でペタキンが生き残った意味を考えた。ため池が温存され、時折しゅんせつされることは、ため池が人間とのかかわりを持っていること、絶滅を促進する要因は自然と人間社会のバランスの崩壊であるが、それを食い止め、かつてのバランスを現代に蘇らせることが大切であることを痛感した、という。一方、ペタキンはどぶ貝の中に卵を産み、その

中で成育する。どぶ貝はハゼの仲間のヨシノボリのヒレに卵を産みつけ大きくなることがわかっていった。つまり、ヨシノボリ→どぶ貝→ペタキンという循環がないとどれも存在できないことになる。この循環を生態系というが、ペタキンを守るということは生態系を守るということである、と北川先生は強調。

ここからが「北川プロジェクト」の本領である。生態系を守ることに加え、「かつての人間社会と自然のバランスを現代に蘇らせるため」として、北川准教授は「里山の復元」をあげる。大学の希少魚ビオトープの近くに田んぼや畑を作り、池のヘドロを汲み上げてそれらの肥料にする。また、水を循環させると、ペタキンが増える、ホタルが飛ぶ、カエルが何種類も現れる、と自然がよみがえった、という。

生態系を守るためには、関係する人も作らなければならない。いろんな人に知ってもらうため、小学校で環境教育の中で取り上げてもらう、地域と提携する、寺や団体・企業にも取り組んでもらう。最近では、生産者やレストランとも連携、ペタキンを含む生態系の中でできた農産



品を「ペタキンの恵み」というブランドで食材に使ってもらっている、という。



講演会のあとの懇親会には、北川プロジェクトの近大生6人も招待された。異例で画期的な



世代間交流となり、当会の会員たちは自分の息子、娘と話し込むように交流し合った。席上、来年年

男になる北川先生に鈴木顧問から手作りの干支の虎の置物が、またならやまの新名所・新名物の命名者にやはり同顧問手作りのクラフト記念品が、それぞれ贈られるなど“忘年懇親会”の様相で盛り上がった。

百人分平らげ 芋煮会

岡田 安弘

2021 年を締めくくる芋煮会は 12 月 9 日、お客さま 7 人を含む 85 人が参加して開かれた。好天に恵まれ、初冬とは思えぬ暖かさ。正午、湯気が上がる大釜の前に、お椀を手に長い列。熱々の芋煮をほうばる。「おいしい!」「優しい味やなあ」。舌に自信? の食レポが続く。用意したのは里芋 220 個、牛肉 4.4 キロと収穫野菜を煮込む百人分。



指導役の池田富子さんと主催のエコファーム組が丹精込めた芋煮は、また

たく間に釜が底を見せた。

今回で 14 回目。秋の恵みに感謝する山形の芋煮に習い、2007 年に始まった。これまでは芋煮の他に黒米のおこわやサツマイモの天ぷらなど多彩なメニューだった。新型コロナウイルスの広がりて規模を縮小、前回から芋煮だけに絞ることになる。

口のなかで融ける

男性陣は芋洗い棒で桶の里芋を掻きまわし、泥を落とす。持参した包丁やナイフで慣れぬ皮むき。初めて参加した男性は「きれいな肌やね」と、手にした里芋をしみじみ眺める。切り口は雪のように白い。



女性陣は、ゴボウ、ニンジン、シイタケなどを収穫。洗って刻む。コンニャクは手でちぎる。池田さんの指導で、手際よく下ごしらえ。

大釜から湯気が出始めた。コンニャク、シイタケ、ゴボウが入る。沸騰した。定番の甚五郎エ門芋と越前大野芋に、今回から初めて愛媛の「伊予美人」が加わり、3 種の里芋と牛肉などが釜を埋める。

だし醤油、粒だし、酒、味醂で味を調え、煮汁が徐々にかからまる。うまみがじっくりしみ込むのにざっと 1 時間。里芋は口の中でほろりと崩れ、融けてゆく。「味の決め手は?」と池田さんに聞く。「美味しくな一れの祈りでしょう」と返ってきた。心を込めた芋煮だ。「いただきまーす!」。

客人も満足

お代わりの列ができる。一人で 3 杯目も現れた。「やっぱり牛肉やなあ。かしわや豚肉ではあかん」「伊予美人はどれや?」「甘味があると聞いているで」。舌で感触を確かめる面々。

お客さまはお馴染みの北川忠生・近畿大農学部准教授と北川教室の大学生ら。絶滅危惧種とされた小さな淡水魚、ニッポンバラタナゴの研究で、この日もタナゴ池で産卵などの調査。その合間の参加だ。「いつも楽しみなんです。煮汁の絡みが絶妙」と満足そう。

好評の伊予美人

里芋は「育った土で味が変わると言われる。ならやまの土で長年育てられ、今や「ならやま芋」と呼ぶ。新顔の伊予美人は丸々と肥え、形が揃っている。



愛媛県農業試験場

が「女早生」を品種改良して誕生。今春、この情報を鈴木末一・前会長が知り、JA 奈良から取り寄せて植えた。

昔は品種別に煮て、味を比べたそう。今回、芋煮だけに絞ったことで、自然の恵みに感謝する気持が深まる。伊予美人は、ほんのりとした甘味で主役並みの人気。来年は伊予美人だけにする案もあるそう。

私の海外での ボランティア活動



木村 裕

青年海外協力隊をご存じですか？ 若い人たちの海外での支援活動だと分かればボランティア通でしょう。これは日本の外務省（国際協力機構）が行っている海外ボランティアで、発展途上国の生活向上支援組織で、保健衛生、工業、農林水産業、商業分野などあらゆる分野での派遣国住民への支援活動で、2年間の任期で活動しています。大勢の若者がほとんど全世界に派遣されています。

青年海外協力隊は年齢が40才までで、それ以上の年齢層に関してはシニア海外ボランティアと言う組織があり、同じように世界各国に派遣されています。派遣期間は2年です。

派遣に関してはとくに資格はありませんが、現地の医療に関しては日本と異なりますので派遣前の健康チェックは厳しく、年齢も70才までです。毎年2回募集があり、要綱をみて自分がやれそうな分野に応募できます。現地までの交通費、現地生活費、住居費は支給されますので、普通の生活をする分には支障はありませんし、配偶者の同伴も奨励されています。

派遣国では日本語は通じませんし、通訳もありませんので、単独で現地の言葉で活動します。そのため、派遣前に一か月程度の語学研修がありますが、日常会話ができるようになればいいのですが・・・そのため、募集時に各国で広く使われている英語について簡単な試験と面接があります。若い人！ 一度挑戦してみたいかがですか？ ただ残念ながら新型コロナウイルス蔓延のため、現在新規募集は中止され、派遣中のボランティアも引き上げています。コロナ騒動がおさまれば再開されることでしょう。

私が派遣されたのは、南北アメリカのつなぎ目にあるパナマです。任地は首都パナマからバスで5～6時間、航空便で1時間弱のコスタリ

カとの国境近くのダビという町（パナマで2番目に大きい町）で、日本の農協に相当する役所で、農業指導・援助を行っています。



パナマ運河を進む大型船

私の役目は農作物の病虫害防除指導（日本での仕事とほぼ同じ）で2年間楽しく過ごしました。農協の技術員に連れられて田舎をあちこちら回りました。陸の国境にも初めてお目にかかりました。大きな道路には国境管理事務所はありますが、私の回る農村地帯では垣根も境界線も何もなく、両国を自由に行き来できました（国境から数キロは問題なしだそうです）。

現地の言葉はスペイン語で英語はまず通じません。一般家庭の主食は米で、低地では大型機械も入れた大規模栽培がおこなわれていました。その他、パン、バナナ、キャッサバも主食です。通貨は米ドル（1ドル以下の少額硬貨は独自の貨幣）でしたので、分かりやすかった。

生活面では近くに大型スーパーがあり、必要な食糧は手配できました。しかし米は長粒米だったので、首都のパナマに出かけた折にアメリカから輸入されたカルフォニア米（短粒米）を買い込み日本食生活を維持しました。

日本との違い、ギャップ、トラブルなどいろいろありました。また機会があれば紹介します。

【皆さんの知っているスペイン語】

セニョール、セニョーラ、セニョリータ：

男性、女性、娘さんの呼称

アディオス：さようなら

コモ エスタ：ご機嫌いかが

鳥のエッセイ

正倉院宝物の花喰い鳥が
平城宮跡に飛んできた。



小田 久美子

平城宮跡歴史講座いざない館から「平城宮跡の鳥」の話の依頼を受けました。歴史講座ですので「鳥」だけの話は不適切かと、上の副題を付け7/10、パワーポイントを使っての講座をしました。野鳥の会奈良支部の活動を紹介した後、「正倉院宝物」の数々には、多くの実在の鳥が描かれていて、花を^{くわ}喰っているのを「花喰い鳥」ということ、その中の「ヤツガシラ」が平城宮跡に過去に何度も来ていた(今春、馬見丘陵公園にも来た)事や、昭和天皇が皇居で「ヤツガシラだ、双眼鏡を」と^{おっしや}仰ると、侍従長が「お芋を見るのに何故?」と云ったというエピソードを話しました。イベリア半島の番組を見ていたら、巣から顔を覗かせた雛に親が餌を与えている映像がありそれが上の映像です。



講座の頃、たまたまツバメの^{ねぐら}埒池に来ていた珍鳥「サンカノゴイ」がドジョウを捕まえた映像も見られて皆さんラッキーでした。

今年国鳥キジが我が国の固有種と判明した事も大きく報道されました。

以下の話は、わたくしが講座で紹介し、このエッセイでも取り上げていきたいと思います。

『記紀』に出てくるニワトリの長鳴き、

「セキレイは『日本書紀』の伊邪那岐、伊邪那美の逸話に登場」、「トラツグミと鶴伝説」、「嵯峨天皇から五位を授けられたゴイサギ」、「天に穴ありて落ちくるヒバリかな(灘高校試験問題)」、お金を貸したお日様が返さないの「日晝分、日晝分、利取る、利取る」と啼くヒバリの聞きなしの話をしました。

『万葉集』では「うらうらに照れる春日にひばりあがり心悲しも一人し思えば」と、大伴家持がひばりを表しています。

『万葉集』で最も多く詠まれたホトトギスの中の大伴旅人の^{たくらん}托卵の歌も紹介。

戦国武将(信長、秀吉、家康+織田信成)の有名なホトトギスの歌、柴田勝家や、崇徳上皇のホトトギスの歌と多く詠まれています。

「物まね上手なモズとそのはやにえの話」、「梅に鶯は本当? 鶯餅はメジロ餅? ウグイスは昔からホーホケキョと啼いていた?」等。

そして、多くの植物に鳥の名が付いていること。例えばカラスノエンドウ・スズメノエンドウはカラス野エンドウ・スズメ野エンドウなのだと言いましたら、「へー!!」と目から鱗のようでした。2年前の比叡山へのバスツアーの時、ガイドさんが「シナダレスズメガヤ」のことを「すすり泣く恋の草」と話されました。英名が「ウイーピングラブグラス」。H12年に「恋にすすり泣く女の黒髪草」と教わり、「ロマンティックな草やねエ」と友人たちと盛り上がりましたが、今や街路や何処にでも見られる繁殖旺盛で残念な草になりました。

予想通り、正倉院宝物に実在の鳥の絵がある事自体知らない人も多く、他の鳥たちの美しい映像と共に皆さんをすっかり魅了出来たようでした。



[クルミを車に引かせて割る・

切符を買う・蛇口を開けて水飲み、水遊びをする・仲間と滑り台で遊ぶ]などの^{天才}カラスの映像とお話を最後にしましたが、これが一番反応が大きかったようです。

今回、鳥の不思議と美しさ、賢さを知って頂けてファンが増えると嬉しいのですが。

2022/1/20(木)と2/3(木)、登美ヶ丘南公民館主催の探鳥会があります。興味のある方は、市民便りをご覧の上ご参加下さい。



「日記」の勧め

岡田 安弘

年の初めに、新たな目標を立てる事がありますね。日記をつけてみませんか。経験を言うと、パソコンなら書き換えが容易で、僕は5年も続いている。手書きだったら3日と、もたなかったでしょう。日々でなくてもよい。折々に書いているうち、日本語に興味が沸いてきます。文章に親しむ近道だと思う。

天候や出来事以外に、出会った人を描写してみるのも練習になります。人の印象は顔だけではない。振舞いや服装まで記憶しているものです。ならやまの自然や活動を振り返るのもよし。読み返すとスーパーマーケットの食材棚のように、日記は雑文の素材が山盛りになっています。

▽

例えば、先輩の家を訪問したとき。奥さんの一言を書き留めていた。

花が終わった胡蝶蘭の鉢。奥さんは、新しい蕾を見つけ、「おりこうさんでしょ」と言う。言葉の懐かしい響きが耳に残る。

▽

老人二人の会話を思いだしたとき。

元社長は「このところ固有名詞が思い出せなくて困ったもんです」と嘆く。その先輩が応じた。「君はましだよ。僕なんか普通名詞が出てこない」。吹き出しそうになる。かく言う自分が、花や食材の名を思い出せない年齢になった。笑い事ではない。

▽

日記は言葉の筆筒と思えばよい。引き出しから一言を取り出して、それにまつわる雑文を書いてみた。読んでもらってこそ文章です。会報誌の「字遊感」に、とりとめもない文章を投稿するようになる。



元新聞記者だからと言って、文章が得意とは限らない。駆け出しの記者は「トロッコ」と呼ばれた。誰がどこで何をした(5W1H)の記事にする。当時は原稿を電話で吹き込んだ。デスクやキャップからポケベルで呼び出される。問い合わせの再取材で精いっぱい。文章が上達した記憶はない。

紙面では形容詞が無残にも削られ、味気ない文章に力が抜ける。先輩は「言葉で一番古びるのは形容詞。森鷗外の小説が今も新鮮なのは形容詞をほとんど使っていないからだ」と言っていた。

勧められて谷崎潤一郎著「文章読本」を読む。「志賀直哉の文章を手本にするとよい。平凡で分かりやすく、最も当てはまる形容詞だけ使っている」とあった。

▽

余分な言葉を削ぐのは、簡単なようで難しい。文筆家ではないのだから書くのが楽しくなることが大切だと思う。日本語は英語の文法とは違って、主語がなくても意味は通じる。伝えたいことを分かりやすく、自由に書けば良い。とは言っても、支離滅裂にならないよう注意は必要だ。

好きな女優の風貌を絵のデッサンのように文章化できないか試みた。ミニスカート、すらりと伸びた素足、銀色の髪。筆は襟足の描写に及び、上出来だと独り悦に入る。そこで止めておけばよかった。次の言葉の持ち合わせが足らず、收拾が付かなくなる。素人が技巧をこらすと、ろくなことはない。

▽

明方の風物の変化は非常に早かった。しばらくして彼が振返って見た時、山頂の彼方から湧上るように橙色の曙光が昇ってきた。

これは「暗夜行路」のラストシーン。志賀直哉は、見たまま感じたままを書いている。余分な形容詞はない。「文は人なり」という格言が脳裏を横切る。

新ならやま投句箱

俳句

冬枯れに 紅葉もみずを偲ぶ ヤマモミジ 千載輝重

こころ削つてと 竹の囁きはなは 千支の虎 鈴木末一

常照に なおあまりあり 照紅葉 八木順一

菊枯るる 新芽急ぐな 手にハサミ 阿部和生

晩秋路 冬芽と成りて 春を待つ 辻本信一

皇帝ダリアも 覗き込んでる 芋煮会 古川祐司

川柳

行く先は コロナに聞いて 冬休み ハーちゃん

投句箱 なんでもいいから 書いてみて ぜんざい

老人は 90歳からよ! まだ若い 自然人

新ならやま投句箱スタート

俳句・川柳・短歌

気楽に投句を!!

ご挨拶

「ならやまトーク・投句」欄は、令和三年十一月号をもって終了いたします。長年のご愛読に深く感謝申し上げます。また、折々の季節に素晴らしい句をお寄せいただいた「ならやま同人」の皆さまに心からの敬意を表しますと共に、今後ますますの御健吟をお祈り申し上げます。

この後を受けて、「新ならやま投句箱」が令和四年一月号よりスタートいたします。何卒、倍旧のご愛読とご支援を賜りますようお願い申し上げます。
(古川祐司)

「新ならやま投句箱」スタートについて

令和四年一月号より「新ならやま投句箱」をスタートします。素晴らしい俳句を数多く世に出した「ならやまトーク・投句」の名前の一部をお借りして、皆さまに親しんでいただくコーナーにしたいと思います。

皆さまが日常で感じた事を十七文字(三十一文字(俳句、川柳・短歌)に込めていただき、このコーナーが会員相互の心の交流の一助になればと願っています。

テレビでは「夏井いつき」先生が大評判です。

皆さまも頭の体操に、俳句・川柳・短歌にぜひ挑戦してください。

(編集子)

投稿先 田中善英

行事案内 Part 1

ならやま歴史同好会主催

奈良・人と自然の会協賛<一般募集>

「大神神社初詣と三輪山登拝・山麓歴史探訪」

中井 弘

大神神社は主祭神「大物主大神」が鎮座する三輪山をご神体とするため本殿がなく、拝殿を通して三輪山を拝む原初の神まつりの姿を留めています。拝殿の奥の三輪山は神聖な場所であり、その結界として「三つ鳥居」があります。

拝殿は鎌倉時代の創建と伝わり、江戸時代に(1664年)徳川四代将軍家綱公により再建されたものです。拝殿に昇殿して神官の厳粛なお祓いを受け「奈良・人と自然の会」の行事の安全と会員の皆様の健勝を祈願します。

その後登拝組・山麓組に分かれます。

登拝組はご神体三輪山に登り(往復2時間)山頂の大物主神の依代「奥津磐座」を拝礼します。

山麓組は三輪山山麓の伊勢神宮の原初となった元伊勢とされる檜原神社、さらに聖徳太子の開基で大神神社の神宮寺であった由緒ある名刹・平等寺を拝観します。廃仏毀釈で平等寺・妙楽寺の塔堂ことごとく破壊されながら見事再建された経緯を、本堂にて当寺の住職から復興のご苦労話を伺います。

恒例の三輪そうめん新春懇親会はありません。

実施要領

日時：令和4年1月18日(火) 雨天実施

集合場所：JR三輪駅前 AM 9:10

持ち物：水筒 弁当 雨具 ストック(杖は登山口にありますが)

交通機関：①近鉄西大寺(8:05 発急行)

乗換 JR 天理発 8:51—三輪(9:03 着)

②JR 奈良(8:37)—三輪着(9:03 着)

担当世話人：古川祐司・八木健彦・中井弘

申込み先：青木幸子

募集人員：20~25名先着順

新春講演会と新年懇親会のご案内

富江 文雄

新しい年を迎えて、下記のとおり、新春恒例の講演会と懇親会を開催します。

講師は京都大学農学部教授の徳地直子先生です。森林生態系、すなわち、植物—土壌系における物質循環の手法を用いた生態系生態学を専門とされています。長い間お世話になっており、平成29年7月には緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞祝賀会において、「里山の変化と竹林の特徴」と題して長岡京市西地域での取り組みを元に興味深いお話を伺いました。

今回は「里山の存在意義とこれからのあり方」について、里山はどのように利用されてきたか、これからはどのような形を目指すべきかといった観点からお話をいただきます。私たちのならやまはどこを目指すべきなのかについて考えるヒントもいただけるのではないかと期待しています。

なお、講演会のあとに新年会を兼ねた懇親会を予定していますので、奮ってご参加をお願いいたします。

日時：令和4年1月29日(土)

13:00 開場

13:30 講演開始

15:00 懇親会開始

場所：ホテルリガーレ春日野

TEL 0742-22-6021

懇親会会費：4千円

送迎バス：JR 奈良駅 12:40

近鉄奈良駅 12:50

担当：平田、福田、富江

参加申し込み先：富江

+

行事案内 Part2

2月 月例研修会のご案内

(寒さに負けずに歩きます)



人呼んで「幻の大仏鉄道」の跡を巡る

小島 武雄

明治31年。今から120年前、JR加茂駅～奈良駅間に開業した大仏鉄道。僅か9年で廃線となりましたが、現在、鉄道遺構として、橋台や隧道などが田園風景の中に残っています。

遺構巡りウォーキングとしても人気があり、道中には、歴史遺産・古社寺等があります。

冬枯れの風景ではありますが、春の息吹も感じられると思います。奮ってご参加ください。

- ① 開催日：令和4年2月8日(火)
(雨天予備日2月15日)
- ② 集 合：JR加茂駅 AM 9:40
- ③ コース：JR加茂駅～機関車モニュメント
～観音寺橋台～鹿背山橋台～梶ヶ谷隧道
～赤橋(大仏鉄道公園)昼食～鹿背山城跡～西念寺～JR木津駅
解散 PM3:00 頃
- ④ 交 通：
・近鉄大和西大寺8:58 京都市行き急行-9:09
近鉄新祝園-歩き3分-JR祝園9:15 学研都市線快速-JR木津9:26-余子 JR加茂9:32
・JR奈良9:18-JR加茂9:32
- ⑤ 持ち物： 防寒服装、雨具、弁当、飲み物他
- ⑥ 担 当： 小島、田中、富井
- ⑦ 申し込み受付 小島



仲間入りしました

久保田 康之

中学時代から長年テニス、卓球などのスポーツを楽しんできました。ところが最近勝ち負けも含め、ゲームを楽しむことに消極的になってまいりました。そのような折り、貴会の活動をボランティアセンターよりご紹介をいただきました。まだ2回の参加ですが、自然の中で木々や土に触れ穏やかな時間を過ごせました。家に帰り、活動の様子など家族との会話も増えました。皆さまにはいろいろと教えていただく事ばかりと思いますが、どうかよろしくお願いいたします。

村田 康晟

11月から「奈良・人と自然の会」に入会させていただきました村田康晟です。私がこの会に入会しようと思ったきっかけは、同じ大学の塩井くんからこの会を紹介してもらったことです。元々里山に興味があり、体験をしたことで自分もこの会に入って保全活動をしたい意欲も沸いたことや、大学の専攻が地理ということで、実際に体験し勉強をすることができると思い入会しました。よろしくお願いします。

2月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動(木)

3日 協働活動日

19日(土) 椎茸イベント 予備日2/26(土)

*月例研修会

8日(火) 幻の大仏鉄道

会員動向(敬称略)

- <入会者> 11月25日：塩井 皓太
12月 9日：久保田 康之
- <退会者> 11月23日：川口 達夫
12月 7日：吉岡 博
12月16日：伊良子 和夫

2021年12月度 幹事会報告

日時：11月30日(火) 14:00～16:30

I 全体報告事項

緑の環境プラン大賞、ポケットガーデン部門のコミュニティ大賞受賞。緑綬褒章伝達式は12/10。祝賀会開催日、幹事改選案の協議を

II 会計、総務部より

・会員動向：2名入会、2名退会で159名

III 活動・行事関係

- ・12/18 年末ならやま研修会
- ・1/6 初出式 七草粥のみとし餅つきは中止

10年継続記念植樹は藤を採用

- ・1/29 新春講演会 講師 徳地先生
- ・2/19 椎茸イベント 予備日 2/26

*ならやまプロジェクト関係

- ・12/2 協働活動 佐保自然の森竹林整備 30名
- ・12/9 協働活動 モニュメント前植樹 20名
- ・12/9 芋煮会 昨年同様とする
- ・12/16 協働活動アダプトプログラム
- ・12/23 活動は午前中 午後 干支の虎作り

IV 企画、助成金事業案件

- ・記念誌：依頼済の原稿待ち
- ・各種助成金、交付金事業については順調に進捗している

V 喫緊、提案事項

- ・コロナ禍がすっきりしない状況に鑑み緑綬褒章受賞祝賀会は見送る。来春に予定している20周年記念祝賀会で1年を振り返る中で合わせて祝う。

- ・来年の幹事改選に向けて、会員からの推薦を求める形を検討する。

できれば3月には次年度計画について新幹事候補者にも参加してもらって検討できるようにしたい。

VI 報告、連絡事項、その他

- ・12/2 第2駐車場に碎石入り整地強力を次回幹事会12月21日(火) 14:00～

以上



<ある小さな会社>

ある日一通の封書が届いた。もう何年も利用していないカタログハウスからだった。内容は「LED寝室読書灯」をお使いの皆さまへ、とある。

アダプター経年劣化のために発煙したケースがあるというもので2006年7月～2008年1月発送品の購入者に、信頼性の高いアダプターを送ります、とのこと。

何年前に買ったのか思い出せないが14～15年も前になるはず！ずーっと購入者の記録が残っていたことに驚く。

このメーカーを調べると、なんと社員20名ほどの小さな会社で、まだLED照明がそれほど普及していない2002年2月に設立、とある。LEDを光源とした照明器具を開発する専門メーカー。商品企画から設計、開発、製造、販売まで一貫している照明機器メーカーとのこと。そしてこのライトは就寝前の読書のために開発された、とある。

たしかに寝転んで本を読む時に便利だった。自由に曲がるアーム、好みの高さ、角度に調整できる優れもの。高価だったが寝る前の読書に重宝していた。しかし・・・いつ頃から寝る前に本を読まなくなったのだろうか？当然このライトも最近では使っていなかったが、あらためて点けてみると全く問題ない。でも新しいアダプターに換えてもらうことにした。



メイドインジャパンのものづくりと誠実な対応に感動している。

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：謹賀新年 ならやまのお正月

新年を迎えるにあたり、心を込めて作りました。(門松は平田さん、干支は鈴木さん作)